

西村和雄他著「新版、分数ができない大学生」ちくま文庫、筑摩書房、2010年3月10日刊を読む

新版、分数ができない大学生

1. 数学は基礎学力を構成するひとつ。
2. 基礎学力とは何かというと「読み、書き、そろばん」、つまり、国語、英語、それから数学だと思います。
3. 英語にしても、数学にしても、どれでも、どれかひとつを欠いて上の高校、大学へと進学していくと応用力が欠けてくるということを問題にしているわけです。
4. けれども、それは最低限のことであって、実は、文系の学生にとっても理系の科目をもう少し学ぶべきだし、理系の学生にとってももう少し社会科学系、あるいは、人文科学系の科目をとらなければいけないと思います。
5. それが、大学、ユニバーシティというものであって、語学学校でもなく、専門学校、職業学校とも違うわけですから広く教養を身につけるべきだと思います。
6. 今は、それが身につくようなシステムになっていない。そうすると、現在の大学生の論理構成が心配になります。

P.322

[コメント]

西村和雄先生の学生のことや大学のことをよく考えた極めてまっとうな大学教育論。本書は、教育に携わる人だけでなく、教育に関心がある人、中学校や高校・大学で学ぶ人が考え、実行しなければならないことをわかりやすく示してくれている。

— 2013年5月3日 林 明夫記 —